

『ゆけむり史学』第五号に寄せて

白 峰 旬

別府大学大学院文学研究科歴史学専攻・院生研究報告会の「ゆけむり史学」第五号が刊行されて、大学院歴史学専攻の専攻長として、うれしく思っています。大学院歴史学専攻の学生にとって、こうした研究発表の機会があることは、感謝すべきであると思いますし、この発表をもとにして、さらにそれぞれの研究内容を深化させることができるでしょう。

自分の大学院生の頃を振り返りますと、この「ゆけむり史学」と同じように、大学院歴史学専攻の大学院生による研究報告誌を刊行していました。その研究報告誌に投稿できるのは、院生報告会で発表をした院生のみでありました。私は、その研究報告誌の第四号（二九八四年）に論文を掲載してもらいましたが、当時はパソコン、ワープロもなく、手書き原稿で入校したことを覚えています。

その研究報告誌も現在は第二八号（二〇〇九年）が最新号です。で、二五年経ったことになりました。当時、研究報告誌の第四号が出た時に、院生たちの間で「三号雑誌にならなくてよかったね」と喜んでいたものです。三号雑誌とは、インターネットの wikipedia によると「創刊して三号ほどで休刊や廃刊する雑誌のことをいう。主に雑誌や同人誌など編集・出版にたずさわる人達の間で使われる言葉で、読者や資金が確保できなかったり、内部分裂などで定期的や

継続的な刊行を早々に休廃止した雑誌に対する、自嘲や揶揄で用いられる場合が多い。」とあります。要するに刊行早々に廃刊になる雑誌のことを揶揄的に表現したのですが、こうした危機感が当初はあったのです。それが、第二八号まで継続して一年一回刊行されてきたことに対しては感慨深いものがあります。

大学院生による研究報告誌が二〇年以上継続して刊行されていることは、そうした院生による研究報告が活発に継続していることの証明になるのですから、「ゆけむり史学」も今後一〇年、二〇年、三〇年と継続して刊行され続けることを願ってやみません。「ゆけむり史学」という名前は、湯都・別府に立地する別府大学大学院ならではのネーミングですし、別府大学大学院文学研究科歴史学専攻では、日本史、東洋史、西洋史、アーカイブズというように幅広い専門分野をカバーしているので、今後、院生の皆さんが活発に研究発表をすることにより、「ゆけむり史学」の存在感はより増していくと思えます。というのは、去年の夏頃、本学附属図書館の方から「ゆけむり史学」に掲載されている研究報告をコピーしてほしい旨の請求が他大学の図書館から来ている、と聞きましたので、このように他大学から注目されるような研究を、院生の皆さんがどんどん「ゆけむり史学」に発表してくれることを願っています。